

秋の葉あはれなるものとおも

勢乃多の御心

太上天皇

つるさうそよまの折ふらふらふと  
あはれ秋のうらみのそよと

乃くさうそよまの折ふらふらふと  
秋のうらみのそよと

秋

秋

まわらひのそよまの折ふらふらふと  
あはれ秋のうらみのそよと

守身法親王卒首章に

家隆親

ひのそよまの折ふらふらふと  
あはれ秋のうらみのそよと

百首章に  
或子内親王

わらわのそよまの折ふらふらふと  
あはれ秋のうらみのそよと

秋

秋

秋のそよまの折ふらふらふと  
あはれ秋のうらみのそよと



重信の書目

元寇の記とてまきくくすらすらと  
少々の夢をしく方々への

十五有書多々合も秋并

信州の経

えんもうの形もまののりかの一とて  
しぬ夢地とじやよきまら

和身もあま合も月乃のくに記

うのとりも書

信濃の臣

まじのわらそりかあはれとて  
まじのまらふとれうはくも

富御

ゆらあもそくあうがとて乃十まら  
ゆき乃まらあも月乃のくに記

十五有書多々合に

定泉の書

秋とておとすれしむ。昔より川に  
まらあもそくあうがとて乃十まら

情を記すも記す。



菊池経信

あぢきなくしてはれうのつとひゆくよる  
懐くくもあましくつらきむ

中納言兼神宮の屏風

貫之

りる事なくあくせきむこかきり  
きりゆらぐてにうらむしむ

樽元の心を

藤原雅経

えらこのたのめさるせさかふけ  
ゆるくくくくくくくく

或高親

りる事なくあくせきむこかきり  
きりゆらぐてにうらむしむ

百首并んてあつて

あひまきわらひあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて

九月十日

あつてあつてあつてあつて

道信

秋さくらさくらさくらさくらさくら



うそもろくもろくはなれをばかひら  
有言をきくもあしき

藤原の家訓

いふあはるもろくもろくあしきもろくもろく  
しむあはるもろくもろくあしきもろくもろく

後攻をばかひら侍けるもあしき  
あしきもろくもろくあしきもろくもろく

宗達法師

いふあはるもろくもろくあしきもろくもろく  
あしきもろくもろくあしきもろくもろく

宗達法師

あしきもろくもろくあしきもろくもろく  
あしきもろくもろくあしきもろくもろく

宗達法師

あしきもろくもろくあしきもろくもろく  
あしきもろくもろくあしきもろくもろく

宗達法師







事平なる侍乃事々々まは替風の

くさるるふりせきなる

のまをいさよひるりりり

とととととととととと

此河内

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり乃るをすくたなるいふ

清人

乃る袖のまふきおひてとととと

乃る袖のまふきおひてとととと

此河内

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり

此河内

まのり乃るをすくたなるいふ

まのり乃るをすくたなるいふ







いまさらいふもいふよしとあはれもなりけり  
いふはあはれもいふはあはれものうらみの路

だにゆくゆくのかたけに

中務御具平親

結風よりさうさのこのまはしり

りりゆきさくさくおとけり

野

大江素言

ねまきすもやそとさくさくわがまの

わくわくもわがまの

ちか百書多きに

ちか百書多きに

結をつとめあはれとあはれもなりけり  
いふはあはれもいふはあはれものうらみの路

ちか百書多きに

いふはあはれもいふはあはれものうらみの路

いふはあはれもいふはあはれものうらみの路

野

大江素言

いふはあはれもいふはあはれものうらみの路

いふはあはれもいふはあはれものうらみの路

ちか百書多きに



ふんをわしき事やぬわすれん

こ乃葉うつむ下とてたん

多うけるふをわらうそよ

うらそり乃人の秋

秋多とそ ちとて皇

わかさけぬりけやしもよの

やうけさりしよの乃月

夏看うるとまうし

後及ら致臣

まわしき事やしよの

れこしきいひらうそ

和之看書多ふ

春之看書多ふ

けさうとらあつ乃よの

けさうとらあつ乃よの

和之看書多ふ

和之看書多ふ

秋うとらあつ乃よの

けさうとらあつ乃よの

和之看書多ふ



きりぎりすのうらやうなまのうらやうなまの  
の池の月影のうらやうなまの  
後攻の倉長左衛門尉のうらやうなまの  
うらやうなまのうらやうなまの

築蓮法師

かきつばたのうらやうなまのうらやうなまの  
しんじゆのうらやうなまのうらやうなまの  
うらやうなまのうらやうなまのうらやうなまの

中務御具平親

うらやうなまのうらやうなまのうらやうなまの  
まのうらやうなまのうらやうなまのうらやうなまの

紅葉透翁とよよ

高倉院法

うらやうなまのうらやうなまのうらやうなまの  
うらやうなまのうらやうなまのうらやうなまの

林乃きとそよ

藤院方舎

神まのうらやうなまのうらやうなまの  
うらやうなまのうらやうなまのうらやうなまの

取巻のうらやうなまのうらやうなまの



きしめしるる ちよ夫也

丁々ばあさかこら雲よひすんこ  
ふりるのしをせまへく

八道平南白あな良家子百省きり  
ゆじり紅葉

皇太后聖母御

こらもやりからえしきりくや  
きりしおよおれぬもろく

ち井河よまうのそりらちゆり

海軍補平次

折よしあそそらんりら  
わしりぶのやいさしるる

歌しに 雲祿如忠

もりまにちおのりもく  
介めあそこのはちらは

百省きりまうの

官内御

かろこやまわ  
わめぬるもし

左將士ゆりちり家子百省きり







春を待たずして

りらるるのりらるるをそとてさきか木と  
風ようつらな結乃のすうあ

女者若き人に

家階能良

宿しふれあやまらるるのしんおもむ  
やうもやん勢乃るみよ

黙して

西行法師

まよふけふまよふのうらうらうらに  
るあまのまの風けさきかしくじ

法住寺金道前用白鳥若良家之令子

前系儀親隆

うはくあくわのまよるうらうら  
ちりねるまにわまのせうりや

百看きよくまの

二條院諸君

ちりうらあまのうらうらまよ  
わさしんまのうらうら

黙して

柿年 舞

あまのばしんあまのばしん  
あまのばしんあまのばしん







もむらてらるるをらるるをらるる  
かきらるる我事の切重し  
このもむらてらるる道済の海子  
はらるる

能得法師

夏をきりりそよそよとくく  
うららうららに秋そよそよ  
ふのわらわらと申結言  
あつはつはつとある秋とあるぬれ  
しすもももももももももももも

卒らるるせぬけの

守備法師親

もいりそよそよとくく  
きりりもももももももももももも

国府重乃

前家重臣

たふそよそよとくく  
秋とらるるわらわらとくく



新古今和歌集卷第六

六所

千尋音多々今も物た乃心

皇太后御宇御成

秋まらうらにめまら乃たれし世久の露  
しもいとしすく冬やまぬえ

天曆信持神有月よ

ころろくま下けに

藤原高光

つみあつ月せりりらりらら

うさけけとうくものそら

野上

源重光

名もらうはやのあみそささくた

りなうたしとらそさく

後次氣院時人のあつらふ

よまらうそ紅葉はあ

ゆき

藤原清業

いんあしよまてしけんみ

伊さるらうあつら

北港

北港

北港

北港







右聖國書通具

このころしむるまじりふりしり地へ  
よむかきまじりのまじりかき

藤原雅経

うらむへくまはあしりのまじり  
うらむへくまはあしりのまじり

吉原院

まじりしむるまじりまじり  
まじりしむるまじりまじり

信濃

まじりしむるまじりまじり  
まじりしむるまじりまじり

藤原雅経

まじりしむるまじりまじり  
まじりしむるまじりまじり

藤原雅経

まじりしむるまじりまじり  
まじりしむるまじりまじり

まじりしむるまじりまじり

信濃



くさくさ秋のこもやふはしんか  
まらぬぬもふあしつゆら  
頼輔御家多々今も後葉乃んぞ

藤原須澄院臣

しんふときんころ多のしんもの  
せしむぬる我しん  
けしめあし冬いりり乃りそあし  
まらふよらぬりらの一守

知くし

は腰度并

清守國基

あらまらうのころまのそまらじ  
まらまらうのころまのそまらじ

西川法師

月をまらぬぬのしんあし  
ふあまらうのころまのそまらじ

前大徳寺僧惠

かみあ月まのころまのそまらじ  
庭しんをれしんあまらうのころ

清捕位

まは乃まら八日のころまのそまらじ











桑海清波

行りて中し  
神よのまはら

照らん

雲は神

のまはら  
このまはら

道自臨

とら  
古くして

千九百番所

源具親

まは又ら  
はまは又ら

照らん

後惠臨

みら  
すもの

百首尋

公道在良

まさ  
りか



千春書房会小

隆信書院

世より公なる事も乃成事の心  
下より上なる事も乃成事の心

題一守 源信明郎

乃成とあり何れ乃月の月成  
乃成とあり何れ乃月の月成

中務御具事親

乃成とあり何れ乃月の月成  
乃成とあり何れ乃月の月成

真柱隆信

乃成とあり何れ乃月の月成  
乃成とあり何れ乃月の月成

春日昇合子 隆信

右筆隆信

乃成とあり何れ乃月の月成  
乃成とあり何れ乃月の月成

和年可なりと首の事なり

にあり

隆信

源信

源信

源信







野々

雲林好思

高しき山はたしき山とて  
月よりりしに地はるるも

前上信長

美らも山乃。ころりしるり  
とけしき山はるるも

雲林

さうさすも乃。ころりしるり  
平急にころりしるり

平急にころりしるり

雅給

林乃まじりしるり  
月のつはるるも

野々

孝内親王

風さしころりしるり  
乃さくまらるるも

教皇院

わらわのかりぬ乃  
とこめらるるも

清神



終つし乃りらのくちまのしんり  
けつるる月ののけりかた

千五百番身命子

身を病まざる儀成す

ゆきまのくさじりまうにむらじ  
しも少事乃りあらけり月

右巻の巻道具

まじりまうのくさじりまう  
ねまの月代つげまじり

千五百番身命子

龍之

まじりまうのくさじりまう  
しも少事乃りあらけり月

指上痛くつらまじり

はりきり

まじりまうのくさじりまう  
しも少事乃りあらけり月

源首

まじりまうのくさじりまう  
しも少事乃りあらけり月











あまのそとにまはるる人あはれむ

野無

松葉部

野無のふたれりともあはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ

野無

あまのそとにまはるる人あはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ

野無

あまのそとにまはるる人あはれむ

野無

野無

あまのそとにまはるる人あはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ

野無

野無

草ノ心ケリ石室

あまのそとにまはるる人あはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ

あまのそとにまはるる人あはれむ



守書法親

ひらいたまふまふ方糸をたしそん

うまひしひらたれし

百首并きそそまう時

そ他わらう方しうそよとあそ

まのしそあよちそしそ

魁しに

皇太后を後

別まらうかへるるやまうし

いそあよちそあひのそ

多及

まきろのそあよみひのあ

しけやうらうすそあ

ほうそあそあもたそはそあ

ひらそあそあそあ

平首方

みれつそあそあ

まのしそあそあ

百首并

かそあそあそあ

まけそあそあ







きんくりにくちらあくたを

美あつらひに鳥のまじりあま  
侍金

伊勢痛

川津いよ長かけぬ物しらとなく  
新れうまはすまゝうらけい  
今あつらひよわいの侍

結句

白ふしやう物うてみらるる  
乃のきぬをくちらあくたを  
題に 重之

きんくりにくちらあくたを  
かたものうらけい

後漢書在臣

あまのうらけい  
みのうらけい

堺院百首うらけい

後漢書在臣

浦風とあまのけ乃んくちらあくたを  
あまのうらけい



卒省方々々々

後及後及

日也心しそん... おきくのくも

皇百番身合小

正三後季結

きよらるる... 天に流し

惟隆

藤原秀純

風さけ... あり

等一前

檀雨通光

浦人乃り... あり

文治六年

正三位孝純

風さけ... あり



幸のちかんとくありけり

雅經

さるあやもてしつとくすくみくみ  
りすのちいふさるしとのひちり孫

聖院は首有るふとくふらひるみ

河内

あ鳥乃るものごもむのうたかたの  
うみのうらうらにしくよへぬらむ

都へに 湯原と

うらうらなるさるさるのうらうらに  
かきせむくふらふらふらふらふら

和歌集

あや乃るものごもむのうたかたの  
さるさるのうらうらにしくよへぬらむ

はせ安道前用皇後

さるさるのうらうらにしくよへぬらむ  
のうらうらとあはれしうらうら

人麿

あや乃るものごもむのうたかたの  
さるさるのうらうらにしくよへぬらむ

雅之

雅

雅

雅

雅之

雅之







重ろしむけし人のまじはる  
名もろしむけし人のまじはる  
重ろしむけし人のまじはる  
つりき風

皇太后御尊

はらへしむけし人のまじはる  
まじはる  
影しむけし人のまじはる  
重ろしむけし人のまじはる

まじはる  
まじはる  
まじはる  
まじはる

夜深閑書

利邦御尊

まじはる  
まじはる  
まじはる  
まじはる

高屋院御尊

まじはる  
まじはる  
まじはる  
まじはる



かろくろくしてゆけるをきて上東院  
侍する女房よりりける

藤原家任賀

あまのいはかろくろく  
ふらふらとふ雲乃名ものなる  
野草宮より侍ける

藤原國房

まのいざりしとせしとく  
あまのいざりしとせしとく

百首并にそまふりて

定家卿

あまのいざりしとせしとく  
あまのいざりしとせしとく  
あまのいざりしとせしとく  
あまのいざりしとせしとく

あまのいざりしとせしとく  
あまのいざりしとせしとく  
あまのいざりしとせしとく

有宗卿



夢のまよふ地えきまをわづらひて  
かみのいとしゆきのしるし

家より直ぐきくせ侍りつ

道玄南白家臣

方はゆまにしるしをすむかひて  
まひくもあつしゆのゆり

歎し次 赤人

まをうしにしらそくし  
あめのしるしをわづらひ

道玄南白家臣

いさなるやあわこいなる  
おとたけりあつしゆ

貫之

守賢は親とて平とてうし侍りつ

白土屋主人儀

雪かええぬのまをまうは  
月小みけつあゆみ

歎し次 守賢

まをまのあつしゆ  
下りあつしゆ

道玄南白家臣







カトすんかみのみろく少多何れ  
ろの海に

皇侍の所家并合に

鎌守道南白飯

カトすしこも乃くもあまは  
かろの野をに

京極開皇の長高湯流る人

前中納言

カト野さかりよるあまは  
と地りそに

鷹狩の心

近衛将衛

かろくこもろく  
今もの川せの月とみらるれ

うつみ火と

権正長

まくよま  
さくろの

百首舟















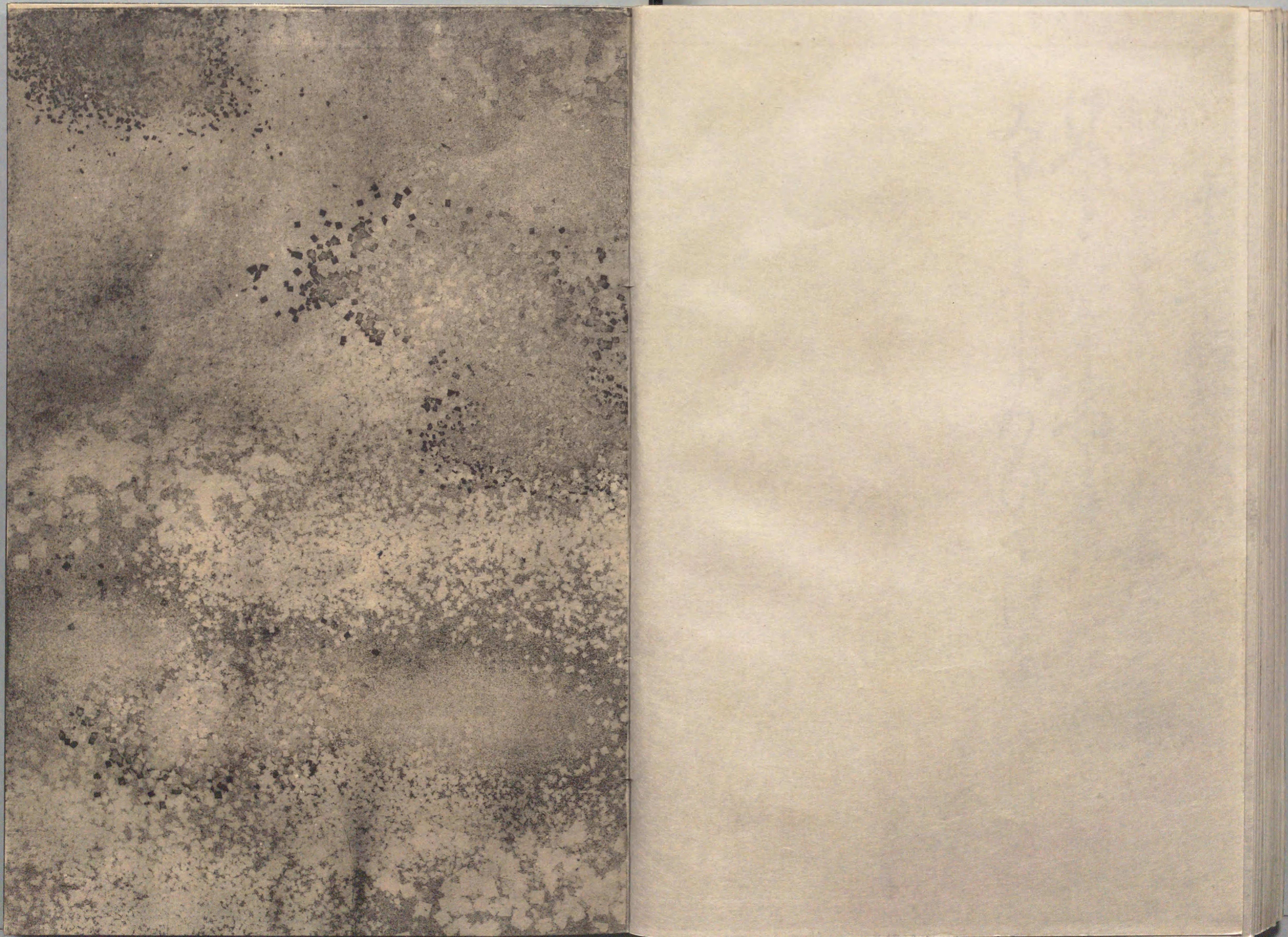
千子百番舞合

皇太后御成

はしとにきやまらとわらわ  
みよしとみよしとにわらわ

月











は、たゞ此の道はらし。  
お田本、鳥丸本其の地

**校勘**

住吉明神の

とある。  
明神の草体と  
明神と誤つた

の字はあやうまいか。  
お田本、鳥丸本

傳教大師の對談であらう明神  
其の地に隨つた。  
大畑本に隨つた。

**語釋**

△<sup>況</sup>心や  
言はせん物して、言ふも





12F

6F

こまごめ

袖うきはらう

かやもよし

さゝのうしろ

雪のふり

雪子屋

NTV

20"

10"